

令和2年度第1回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

- 1 日 時 令和2年10月16日(金) 午後3時～午後4時
 2 場 所 白石市防災センター2階 会議室

委員

番号	区 分	団 体 等 名 称	役 職	氏 名	
1	産 業 界	白 石 商 工 会 議 所	会 頭	齋 藤 昭	
2		白 石 蔵 王 地 区 企 業 連 絡 会		猪 股 政 浩	
3		白 石 市 産 業 振 興 会 議	代 表	佐 藤 全	欠 席
4	教 育 機 関	宮 城 大 学	名 誉 教 授	富 樫 千 之	
5		宮 城 県 白 石 高 等 学 校	校 長	佐 藤 浩	
6		白 石 市 立 小 中 学 校 校 長 会	会 長	狩 野 隆	
7	行 政 機 関	東 北 財 務 局	総 務 課 長	大 山 佳 孝	代 理 出 席
8		宮 城 県 大 河 原 地 方 振 興 事 務 所	地 方 振 興 部 長	狩 野 裕 一	
9		大 河 原 公 共 職 業 安 定 所 白 石 出 張 所	所 長	菅 野 良 恵	
10	金 融 機 関	七 十 七 銀 行 白 石 支 店	支 店 長	佐 藤 英 明	欠 席
11		仙 南 信 用 金 庫	地 方 創 生 支 援 業 務 担 当 部 長	菅 野 勉	
12	労 働 団 体	連 合 白 石 地 区 会 議	事 務 局 長	千 葉 匠 司	欠 席
13	報 道 機 関	フ リ ー ア ナ ウ ン サ ー		船 越 理 香	欠 席
14	学 識 経 験 者 等	白 石 市 歴 史 文 化 ア ド バ イ ザ ー		麻 生 菜 穂 美	
15		白 石 市 議 会	議 員	佐 藤 秀 行	
16		白 石 市 観 光 協 会	会 長	佐 藤 善 一	
17		白 石 青 年 会 議 所	理 事 長	遠 藤 直 秀	欠 席
18		み や ぎ 仙 南 農 業 協 同 組 合	白 石 地 区 事 業 本 部 地 区 事 業 本 部 長	大 沼 和 則	欠 席
19		白 石 市 認 定 農 業 者 連 絡 協 議 会	(有) 竹 鷄 フ ェ ー ム 常 務	志 村 竜 生	欠 席

20		白石刈田地区 父母教師会連合会	会 長	平間 克治	
21		子育て世代代表		佐藤 智美	
22		プランニング開 代表・アトリエ自遊 楽 校 主 宰		新田 新一郎	
	白 石 市 出 席 者				
		白 石 市 長		山田 裕一	
		白 石 市 副 市 長		菊地 正昭	
		白石市総務部長		古山 光春	
		白石市総務部 地方創生対策室		毛利 春樹	
		〃		山田 裕介	
		〃		松本 志畝	

配布資料（以上、事前配布）

【次 第】

【資料1】白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略 現行計画評価結果

【資料2】地方創生市民アンケート調査集計結果

【参考資料】白石市における地方創生関係交付金事業 2020.4.1現在

白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員名簿

白石市まち・ひと・しごと創生「白石市人口ビジョン」及び「第2期総合戦略」策定基本方針（案）

計画策定スケジュール（令和2年10月16日現在）

3 議事概要

○委嘱状交付

新たに委員となった方に対し委嘱状を交付。

○各委員紹介・白石市出席者紹介

今年度1回目の開催のため、事務局より各委員・市出席者について紹介。

（事務局説明）

【資料1】と【白石市まち・ひと・しごと創生「白石市人口ビジョン」及び第2期総合戦略策定基本方針（案）】の資料を説明。

（委員からのご意見）

斎藤副会長：8ページに「新白石三白」という名称があるが、正しくない言い方はあまりしない方がいい。「白石三白」というのは、江戸時代中期にでき

て、それが明治維新の産業革命の時に、「葛・和紙・温麺」から「生糸・小麦粉・温麺」を白石三白と呼ぶようになり、1965年頃まで「白石三白」という呼び名で色々な商品を作ってきたが、あえて「新白石三白」という呼び名は使っていない。史実に反するものは使わないように、検討された方が良いと思う。

富樫会長：「白石三白」には長い歴史があり意味がある。史実に基づいて正しく文言を使ってほしいというご意見であった。

麻生委員：資料1の現行計画評価結果2ページのKPI中、「後継者育成支援事業申請数」「インターンシップ参加人数」について、『実績なし』の原因は何か。

事務局：後継者育成支援事業は、評価指標を申請数としていたが、「白石和紙にかかる製造過程技術の指導を受け、政策補助等を経るなど現役白石和紙職人へ師事した数（個人）」を設定したため、師事した方がいなかった。ただし、和紙の継承としては、蔵富人さんに対し、団体として補助を行っている。また、こけし村に対しても団体として補助を行った。

インターンシップは、企業の都合もあり実施できなかったが、担当課によれば、体験ツアーや仙台で大学生向けに白石市の企業説明会を独自に開催し、大学等にPRを行ったが、参加した学生はいなかった。

麻生委員：今、移住促進の方で若い方が応募して実際に移住してくれた方もいるので、そういった方を和紙やこけしの後継者として募集するのも今後考えたらいいと思う。

富樫会長：白石では地域おこし協力隊をやっており、そういった方は貴重だと思う。

では、現行の評価についてはこれでよろしいか。

一同：はい。

富樫会長：次に策定基本方針（案）についてはいかがか。

白石ではキッズランドも作って非常に評価も高い。ライフステージには色々あるので、例えば、女性なら子どもを産み、育て、子どももだんだんと成長していくといった様々なステージがある。それぞれのステージに何が必要かということが重要。何かご意見があれば。

佐藤（智）委員：市外からの移住者には補助金等があるが、市内から市内での転居（新築等）の場合は金額が低く落差が激しい。他の市町村の方が魅力に感じれば、市外に出てしまう人がいるのではないか。また、子供の教育の部分も親は興味があると思うが、やはりコロナ禍で学校に行けない時期もあり、そこでかなり学力の差が生じてきてしまっている。低学年で差があると、学年が上がるほどますます差が開いてしまう。塾にやるとしても所得格差でまた差が出てしまう。そこをなんとか埋めていくのも大事。昨年までは補習タイムという勉強の場があったが、今はそれもなくなった。家庭での学習が大切になるが、両親が外で働いて

いとそれも難しい。家に閉じ込めてしまうと子どもの学習意欲もなくなってしまうので、学校と家庭をうまく両立しないといけないが、そういったことを話し合える機会もない。地域の中でどのように取り組んでいくのか、コロナの状況も踏まえなければならないと思う。

富樫会長：コロナがいつまで続くか不透明な部分もある。ウィズコロナという考え方もある一方で、今のような課題が各地で起こっている。その中でいろいろな対策・対応が必要になってくる。高校での学習はいかがか。

佐藤浩委員：コロナが発生してから、3月から3カ月休校期間があったが、色々な形で空白を作らない対策を講じてきた。ただ家庭環境に差があるので、動画配信やインターネットを使った学習など工夫はしたが、家庭環境によって受けられない生徒が出てきたので、印刷物の配布等で対応したが、今後、第2波、第3波が来て学校を休みにしなければならない際、家庭環境に依存する形の学習の空白が起こらないように努力している。

6月以降の学校再開で学習の遅れが生じており、本来12カ月でやっていた内容が10カ月に圧縮されている中、3月には一定の成果を出さなければならないというところが学校に求められている。そこは学校で工夫してやっていきたい。保護者ともやりとりをしながら丁寧な対応を心掛けていきたい。

富樫会長：中学校はいかがか。

狩野委員：コロナに関して、白石市では他より早くスタートしており、少しずつ遅れを取り戻している状況。各学校でも様々な工夫をしながら取り組んでおり、密を避けながら登校日を設けてそこで学習状況を確認したり、HPで学習支援を出して進捗をみたりするなどしている。やはり、家庭学習と学校を連携させないと埋めていけない。今やっているのは、GIGAスクールで、そこで家庭学習のサポートができるのではないか。テストの結果白石の学力は、それほど高くなかったが、徐々に上がってきた生徒もいる。

富樫会長：先生方もコロナ禍でかなりオーバーワークになっている。どこかと協力しながら過度な負担にならないようにしないと。あるいはボランティアなどの支援体制が必要になるかもしれない。

また、移住の補助金について、外から来た方への補助金はあるが、市内から市内へ転居した場合の補助はあまりない。

佐藤（智）委員：子育て世代が新しい家を求めたときに、地域外からの手当ては良いが、市外へ出さない工夫も必要ではないか。リモートワークの普及等で地方で仕事ができるような状況になってきている。仙台など都市部に出ていってしまうので、なるべく白石にとどまってもらうための施策が必要。

富樫会長：白石は通勤圏内でもあるので、なるべく住んでもらえるといい。

山田市長：白石では選ばれる街づくりを推進している。子育て環境と教育環境の

充実。白石で子育てをしたい、白石の学校に入りたいと思われるような環境を整備していこうとしている。昨年は教育改革元年として、基礎学力向上のため慶應義塾大学と埼玉県と共同で開発した学力テストをすべての生徒に年2回実施し、弱点・強みを先生が把握してそこに対してしっかりとコミットしていく。おかげさまで全国学力テストで平均点を超えている学校もでてきた。今年度から小学校の学習指導要領が全面改正され英語が教科化された。市としては、小中学校の英語特区を申請しており、認められればより柔軟な英語環境を提供できるようになると思う。また、本日午前中に宮城教育大学と教育委員会が協定を結んだ。特に英語特区が認められれば、より積極的に宮教大の先生が白石にきて、小学生の英語教育が充実する。市内での転居の場合の補助額が低いという指摘についても内部で検討していきたいと考えるが、まずは、子どもたちの教育環境を充実させて、白石で子育てしたいと思ってもらえる方がより重要だと思っている。

今年度は、小中学生の英検の受験費用の半額を補助する事業を新たにスタートした。来年度は、この事業を拡大し、英検だけでなく漢検や数検などにも拡充して、より子どもたちが夢や希望を叶えるための学力向上に向け様々な支援していきたいと思う。

また、今年度はコロナ禍でもあり、季節性インフルエンザの予防接種の本人負担軽減を中学3年生のみから生後6カ月から中学3年まで一気に拡充させた。そういったことから、子どもたちの健康を守り、教育環境の拡充についても積極的に取り組んでまいりたい。

富樫会長：そのほかにご意見は。

(特になし)

○事務局より

今後の会議のスケジュールを説明。

(以上で閉会)